

## 奈良の丘だより



横浜市立奈良の丘小学校

学校教育目標

5月号

笑顔いっぱい チャレンジいっぱい奈良の丘

<http://www-local.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/naranooka/>

## 大人も学び続けたい大切なこと

校長 浅川聡子

下校後、子どもたちが集まって、校庭や公園で元気に遊ぶ姿が見られ、「子どもはこうでなくっちゃ！」と思う反面、「出かける先をおうちの人に言っているかな？暗くならないうちに帰るかな？」と、心配が頭をよぎります。子どもが巻き込まれる事件が起こるたびに、どうしたら子どもを守ることができるだろうかと考え、また、加害者については、道を踏み外す前に、教育ができることがあったのではないかと胸が痛みます。

特に性暴力に関しては、SNS やデジタル機器の発達により、より深刻なことは言うまでもありません。学校では、昨年度、文部科学省の通達により「命の安全教育」が行われました。（詳しくは文部科学省のHPをご覧ください。）また、水泳学習前に「プライベートゾーン」について、勝手に触ったり、触らせたり、見ようとしたり、見せたりしてはいけないことを教えます。とても大事な部分だから、自分のも他人のも大切にしようと思えています。

実は、日本の性教育は、ヨーロッパ諸国やアジア諸国に比べ、大変遅れていることをご存知でしたか？ 日本の小学校では、学習指導要領に従って、体は思春期になると大人の体に近づき、変化が起こることしか教えません。日本でもかつて進んだ性教育が行われていたことがありましたが、様々な問題によりかなり後退してしまいました。また、性は恥ずかしいもの、隠すものとして扱われてきた歴史があります。そして、「寝た子は起こすな」理論で、下手に刺激をしない方がよいとされてきました。その結果、私たち大人は誰も学問としての性教育を受けてきていないのです。

包括的性教育についての講演会に参加した際に、性教育は「いのち・体・健康」の学問だという話を聞きました。これからの世の中を生きていく人格を育てるのに必須の「教養・知性」であると。具体的には、性的なトラブルを避けられること。万が一トラブルにあっても解決に向かって適切に対処できる人間に育つということや、自分の性や体について肯定的に捉えられるようになって「自己肯定感の高い人間」に育つということでした。



性教育は、学校の授業だけで行うには限界があります。子ども達が日々成長する中で直面する、体の変化や心の変化に合わせて、その都度伝えられることに越したことはありません。子どもに尋ねられたり、心配な行動が見られたりした時に、ちゃんと伝えられる大人でいたいものです。

先日、日本教育新聞で紹介されていた株式会社 KADOKAWA が発行している「おうち性教育はじめます～一番やさしい！防犯・SEX・命の伝え方～」を読みました。著者はフクチマミさん・村瀬幸浩さんによるコミックエッセイです。大変わかりやすくおすすめです。ぜひ、お手に取ってみてください。